

特集

地域みんな で子どもを 支え、 育てる

奈良県では、未来を担う子どもたちの、健やかな成長と確かな学力の向上を図るため、学校と地域、家庭が協働して、「地域の教育力」を高め、みんなで子どもたちを育てるための取り組みを進めています。今回は、「奈良県地域教育力サミット」で議論され、具体的に既に取り組みされている事例を紹介いたします。



二上小学校のふたかみ農園にて

奈良県の子どもたちの現状

奈良県の子どもたちは、全国平均に比べて、学力は高いけれども、学習意欲、規範意識・社会性や体力が低いという調査結果となっています。

学力、学習意欲

教科の平均正答率が高いが、勉強が好きと回答した子どもの割合は低い。

	国語A		国語B	
	小学校	中学校	小学校	中学校
奈良県	82.4(13)	76.6(7)	57.3(10)	63.3(21)
全国	81.8	75.0	55.5	63.3

	算数・数学A		算数・数学B	
	小学校	中学校	小学校	中学校
奈良県	75.3(7)	63.6(13)	60.0(10)	50.7(12)
全国	73.2	62.2	59.2	49.3

(抽出対象公立学校の平均正答率)
(Aは主として「知識」に関する問題、Bは主として「活用」に関する問題)
平成24年度全国学力・学習状況調査(文部科学省)

質問	奈良県		全国	
	小学校	中学校	小学校	中学校
国語の勉強が好きと回答した子どもの割合	64.4(18)	54.2(43)	63.0	58.6
算数・数学の勉強が好きと回答した子どもの割合	59.8(46)	48.4(44)	64.9	52.1

平成24年度全国学力・学習状況調査(文部科学省)

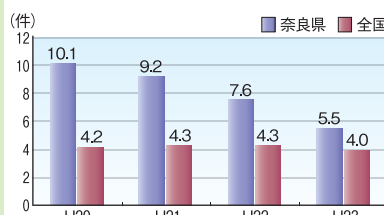
規範意識、社会性

「学校の規則を守っている」「いじめは、どんな理由があってもいけない」と回答した子どもの割合は低い。暴力行為の発生件数は減少しているものの、全国平均に比べて多い。

質問	奈良県		全国	
	小学校	中学校	小学校	中学校
学校の規則を守っていると回答した子どもの割合	87.5(46)	87.5(47)	91.3	92.3
いじめは、どんな理由があってもいけないと回答した子どもの割合	94.6(43)	90.4(46)	95.4	93.0

平成24年度全国学力・学習状況調査(文部科学省)

県内小・中・高校生の暴力行為の発生件数の推移(1,000人あたり)



児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文部科学省)

体力、生活習慣

体力は、小学生は全国平均並み、中学生は全国平均より低い。「平日、家の人と一緒に夕食を食べている」と回答した子どもの割合は低い。また、「寝るのが11時(午前0時)より遅い」と回答した子どもの割合は高い。

※小学生5年生、中学生2年生のデータ

	握力(kg)		反復横とび(点)	
	奈良県	全国	奈良県	全国
小学校(男子)	16.80(21)	16.70	41.84(26)	41.58
小学校(女子)	16.31(21)	16.23	39.18(30)	39.23
中学校(男子)	29.43(31)	29.65	51.51(30)	51.55
中学校(女子)	24.07(24)	23.98	44.79(38)	45.46

平成24年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査(文部科学省)

質問	奈良県		全国	
	小学校	中学校	小学校	中学校
平日、家の人と一緒に夕食を食べていると回答した子どもの割合	86.7(47)	76.4(46)	89.4	82.8
寝るのが午後11時より遅いと回答した子どもの割合(中学生は午前0時)	23.1(2)	42.4(1)	15.0	26.6

平成24年度全国学力・学習状況調査(文部科学省)

※表中の()内の数字は、本県の全国順位を示す。

奈良県地域教育力サミット

県では、平成23年度から、知事を議長に、行政・経済界・保護者・教育関係者が一堂に会して、学校と家庭、地域が協働し、地域の教育力の向上を図るため、奈良県の教育課題について意見交換を行っています。

これまでに、4回開催され、今後も、設置している5つの部会での討議内容を踏まえ、今後の取り組みと、生涯を通じた奈良県教育全般の方向性について、協議を進めていきます。

《奈良県地域教育力サミット部会》

- 【第1部会】奈良教育基本問題検討部会
- 【第2部会】地域協働による教育部会
- 【第3部会】地域の就労教育部会
- 【第4部会】障害者の就労・社会参加教育部会
- 【第5部会】スポーツの学校・地域連携部会

地域と共にある学校づくり

学校が地域のベースとなり、「地域コミュニティ」を再構成し、保護者や地域の人々の学校運営への参画、学校との協働を通じて、みんなで子どもたちを育てるための活動を展開しています。

現在、86.7%の公立小・中学校が、また7校の県立学校(モデル校)が、「地域と共にある学校づくり」を進めています。

学校づくり、地域づくりの新たな段階として、さらにネットワークを拡大していくことが必要と考えています。そのため、地元の企業や大学、公民館や図書館等の社会教育施設と新たな連携も進めていきます。

学校コミュニティ(=奈良モデル)

学校コミュニティ協議会



パートナーシップ

参画・協働



学校・教職員

学校…窓口となるコミュニティ部を作ります。

(教頭・教務主任・各部長・校内コーディネーターなど)

※学校コミュニティとは、学校をベースとした地域コミュニティを表しています。

保護者・地域住民

保護者・地域住民…ボランティアとして活動に関わります。

(PTA・自治会長・グループリーダーなど)

学校コミュニティの今後の方向性



今回は、公立小・中学校から各1校と県立学校7校の取組事例について、紹介します。

公立小・中学校

香芝市立二上小学校

運動会運営への参画

学校と保護者、地域住民で、運動会での観覧方法について話し合い、保護者の観覧席を立ち見で入替制に変更しました。出場学年の保護者が優先席の後ろ最前列になるように、プログラムごとに入れ替わりながら観覧します。



学年別色ゴム
スムーズな学年入替のために、お子さんの所属学年が分かりやすいように、保護者の手首に付けてもらいました。

次は、5年生の徒競走です。学年別色ゴムの緑色の方は、最前列にご移動ください。



入替を呼びかける二上幼小育友会の役員



二上コミュニティ推進委員の皆さん

子どもたちに、ルール・約束を守る大人の姿を見せましょう!

五條市立五條西中学校

地域行事の運営に生徒が参加 これまでは、学校を地域行事の場として開放し、生徒は各自自治会のイベントブースのお手伝いをしてきました。今年度からは、生徒のみでイベントブースを自主運営し、地域の一員として、より深く地域と関わっています。



地域のお祭り「MAKI・まつ2013」のようす

県立モデル校

県では、今年度より7校の県立学校をモデル校として指定し、「地域と共にある学校づくり」を進めています。平成26年度にはすべての県立学校で取り組みます。

五條高等学校

地元の秋祭りを盛り上げるために参加しました。御輿を担いだり、天平人に扮して町を練り歩きました。



天平人に扮して

添上高等学校

本校区の方々のスポーツ交流大会開催に向け、グラウンド・ゴルフ普及指導員の方々にご指導いただきました。



スポーツを通しての絆づくり

山辺高等学校

地域の保育園を訪問し、お点前の披露・礼儀作法等について、園児の茶道体験学習を行っています。



大和茶のおもてなし

奈良西養護学校

学校と地域が連携・協働して、ふれあい文化交流会を開催し、児童生徒の社会参加と地域の活性化を図ります。



企業の方から学んだおもてなしの心でサービス

大宇陀高等学校

うだ・アニマルパーク、大宇陀幼児園、老人ホーム等、地域の施設と双方向での交流を行っています。



幼児園との交流

香芝高等学校

本校グラウンドで真美ヶ丘保育所の避難訓練を実施。体育の授業中の1年生が補助をしました。



手をつないで避難

青翔高等学校

鴨都波神社「秋季大祭神輿御渡」の神輿担ぎに、生徒会本部役員を中心に有志が参加。地域の人たちと触れあい、伝統文化の継承に協力しています。



鴨都波神社祭りへの参加

障害者の就労、社会参加

県では、障害のある人が、自立して生きていける力を身に付けるための教育や、地域で働けるための環境づくりについて、地域教育力サミットで意見交換を行っています。

今回は、県立高等養護学校の「就職率100%」を目指した取り組みについて紹介します。

①早い段階から就労を目標とした、社会参加体験や職場実習を実施しています。



ベーカリーレストランでの職場実習



地域の人たちと一緒に、飛鳥川の清掃活動に参加

②専門教科の充実として校外に出での演習を実施しています。



より高い技術を目指して、農業大学校での本格的な園芸の実習

③学校と家庭(PTA)が一体となつて、職場実習先の開拓や社会参加体験先の巡回指導等の取り組みを実施しています。

[4P.5P.6Pの内容について]

奈良県立大学の改革

県では、「地域づくりに貢献できる優れた人材」を養成するため、対話型少人数教育（学習コモンズ制）導入を柱とする県立大学の改革を進めており、平成26年度新入生からの新制度移行に向け、準備を進めています。

学習コモンズ制の導入

平成26年4月度より、「観光創造」、「都市文化」、「コミュニティデザイン」、「地域経済」の4つの領域で、新たな対話型少人数教育システムである「学習コモンズ制」を導入する予定です。

2年生～4年生の3年間、同じコモンズを選択した学生グループと複数の教員によるゼミを中心とした教育を実施します。



※イメージ

「学習コモンズ」とは、学生と教員による志向性を持った学びの共同体のこと。地域づくりに貢献できる優れた人材の育成を目指します。

4つの「学習コモンズ」による
「地域づくりに貢献できる
優れた人材づくり」



地域交流センターの設置



就業支援相談のようす

学生の地域交流・地域貢献、国際交流、就業支援のため、平成25年4月に「地域交流センター」を設置しました。

平成26年度に完成予定の新棟へ移転を予定しています。

実践型教育

フィールドワークを必修化し、実践的な人材を養成していきま



※イメージ

公立大学法人化の推進

平成27年4月から、奈良県の組織から公立大学法人への移行を目指しています。

協働サロン等の設置

大学内に地域と大学をつなぐ「協働サロン」を設置します。

また、年度内に桜井市と連携して、大学と地域との交流拠点として地域サテライトを同市内に設置します。

● 学習コモンズ制の導入や協働サロンの設置等は、文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（平成25～29年度）」に県立大学の活動が採択され実施するものです。

知事から

ひとつこと

「奈良県地域教育力サミット」では、教育課題の解決に向けて、各部会での協議を踏まえた、具体的な取り組みが進められています。

すでに、県内各地で、地域ぐるみで子どもたちを育てる活動に、多くの保護者や地域の方々が参画いただいています。今後、大学、企業など、地域教育のネットワークをさらに拡大していく必要があります。

生涯を通じて、学び続けることのできる環境の整備を行っていきたくと考えています。

